

緒方 泰子

千葉大学大学院 看護学研究科

看護システム管理学専攻 地域看護システム管理学 准教授

高齢社会を継続的に支えるための

看護資源の有効活用に向けた看護実践環境測定尺度の開発

看護実践環境を測定する尺度の開発を目的として、東京都23区及び政令指定都市の病床数50床以上の一般病院696病院（大学病院除く）に研究協力意思を尋ね、協力意思の示された28病院の病棟看護師4,747人を対象に、無記名自記式調査を行った。

調査内容は、看護実践環境に関する項目（the Practice Environment Scale of the Nursing Work Index (PES-NWI)31項目および先行研究等にもとづく追加項目）、看護師特性等である。

有効回収率は40.4%であり、回答者は、女性97.2%、平均年齢32.8歳、総看護経験年数は平均10.0年であった。

因子分析の結果、看護実践環境に関する項目から、6因子（30項目）、7因子（42項目）の尺度候補が得られた（クロンバック α 係数0.75～0.93）。各因子および項目全体の得点は、看護師の職務満足と0.46～0.76の有意な相関があり、離職率の高低と有意に関連していた。

尺度を構成する項目や因子の内容から、本尺度候補は、看護実践環境の測定において妥当な内容を含むと考えられた。今後は、複数の観点からの信頼性・妥当性の検証と合わせて、看護師の定着や質の高いケアの提供環境の実現に向けた活用可能性について検討していく必要がある。